

札幌豊平教会 2025 教会修養会

天皇制は申すまでもなく、アジア・太平洋戦争終結まで、この国とその植民地を支配し、覇権国家（他国に侵略を企て、政治支配を目論む国家）である神国日本＝大日本帝国の礎となった政治・宗教制度です。

戦争終結後、戦争責任の中枢にある天皇は訴追もされず、本人の戦争責任告白も退位もないばかりか、新生日本国の平和憲法の中に「国民統合の象徴」としての位置を確保しています。

2025年10月26日（日）

12時30分～14時30分 終了予定

札幌豊平教会礼拝堂にて〈参加費無料・予約不要〉

当教会は「戦後50年を迎えての日本キリスト教会札幌豊平教会の罪の告白と新たな宣教への決意」を採択しました。それから30年。戦争終結から80年を迎えた今日ですが、過去において戦争犯罪に加担した者（教会）の戦後の生き方として、戦争をしない社会を築くために〈日本社会がかかえる諸問題の根源に据えられた天皇制の克服〉に、あらためて着目し、戦後の「象徴天皇制」のもとにある日本と私たちを見つめ直します。

講師 伴野昭人さん（北海道新聞記者）

戦争終結から80年「象徴天皇制」の道筋は、「旧憲法下の天皇制“再生産”」の道をたどっているようにも見受けられます。

戦争終結後の日本国は、実態としては、米軍統治下の属国状態を脱することができずに今日を迎えています。制度的には大きな変化があったはずですが、戦後の日本社会には、天皇主権の時代からの人間の差別化や非民主的社会構造や意識、軍国・国家主義が、乗り越えられずに生き続けているように見えます。札幌豊平教会は、今、改めて天皇制の戦中から戦後への転換点、戦後の天皇制を問う学びを行いたいと考えています。

幸い、良き講師を与えられました。この課題は、日本に居住するすべての者のたちの前にあります。ぜひ、多くの市民の皆様と、共に学び、響き合って参りたいと願います。

〈講師プロフィール〉

1964年北海道生まれ。90年北海道新聞社に入社。論説委員、文化部長などを経て、昨年より「戦後80年」の特集記事の取材・執筆チームに。元宮内庁担当で、戦後70年には、明仁天皇の海外慰霊に同行取材。著書に『マッカーサーへの100通の手紙』『北海道開発局とは何か』など

主催・問い合わせ：日本キリスト教会札幌豊平教会

豊平区豊平6条3丁目5-15 電話 090-8863-7316（いのう）

アクセス 地下鉄東豊線「学園前」駅1番出口より徒歩5分

（公共交通機関の御利用をお勧めします。近隣にコイン駐車場有）

Mail: contactch@ccj-toyohira.church

天皇制の克服

戦後天皇制のうちに生きる私たちを見つめる



*キリスト教会は、非暴力の歩みを進めます。ご理解の上、どなたもご参加ください。